

## 東京消防庁 消防署体験について

東京消防庁は消防署体験を実施し、皆さんの知らない消防署の仕事の意外な一面をお伝えします。消防署の仕事を知りたい、消防署と自分との接点を探したい、公務員に興味がある。どんな理由からでも構いませんので是非ご参加ください。

### 募集条件

高校生～29歳。  
東京消防庁での就業経験がない方を対象とします。

主に学べること（※詳細は消防署により異なります）

詳細は特設サイトにてご確認ください。  
<https://tfd-saiyo.jp/taiken/>



### 消防署見学

訓練施設や事務室  
消防車や資器材などについて  
消防署ならではの施設や装備を  
見ることができます。

### 業務体験

訓練見学や防火衣装着など  
消防署ごとに異なった業務体験を行うことが可能です。  
実際の業務に触れることで、  
仕事の雰囲気を感じてください。

### 先輩消防官の話

様々なキャリア、職種の方の話を聞くことができます。  
理系の知識が活かせる、最前線で活躍している女性がいるなど、  
意外な驚きがあるかもしれません。  
自分の気になっていることを質問してみましょう。

### 過去の採用試験の状況

採用試験における試験区分や受験資格、  
採用予定者数などについて説明します。  
先輩消防官が、どのように試験対策をしていたか  
聞くことができるチャンスです。



理系学生の皆さんへ —消防官という選択— 東京消防庁  
TOKYO FIRE DEPARTMENT

※東京消防庁の業務内容や採用試験、業務説明会についての情報を、東京消防庁ホームページ(採用案内)の「東京消防庁採用情報サイト」で公開しています。

人事部人事課採用係

採用フリーダイヤル：0120-119-882（平日の午前8時30分から午後5時15分まで）

TEL：03-3212-2111（代表）

〒100-8119 東京都千代田区大手町1-3-5

東京消防庁ホームページ <https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp>

東京消防庁Twitter [https://twitter.com/Tokyo\\_Fire\\_D](https://twitter.com/Tokyo_Fire_D)

東京消防庁Facebook <https://www.facebook.com/TokyoFireDepartment/>



リサイクル適性(A)  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。  
石油系溶剤を含まない  
インキを使用しています。



# 学んだことが活かせる東京消防庁の仕事

## 建築



消防同意事務 / 建物検査 /  
火災予防査察 /  
消防庁舎の設計・施工監理 など

## 電気



消防同意事務 / 建物検査 /  
電気設備の保守管理 /  
火災調査 など

## 電子・通信



情報通信体制の整備・維持管理 /  
総合情報処理システムの整備 /  
ICT関連業務 など

## 化学



危険物規制 / 火災調査 /  
NBC災害対策 / 化学機動中隊員 /  
機動科学隊 など

## 物理



火災性状・燃焼現象の検証 /  
特殊災害の防除に関する技術改良・検証 など

## 土木



防火水槽等の設計・強度計算・施工管理 /  
河川等による消防水利確保方策の検討 など

## 機械



消防用設備等に関する審査・技術指導 /  
火災調査 / 消防装備・車両の改良 など

## 自動車・航空・船舶



消防車両等の点検・整備 /  
消防車両等の性能・機能・デザイン等の検討、  
仕様作成 など

## 救急救命・看護



救命講習等の推進 /  
患者等搬送事業に対する指導、助言 /  
救急相談センター など

## 広がるキャリア

### 東京消防庁 | 入庁後

消防署で通常業務を経験し、基礎能力を養います。さまざまな業務を通じて、自らの適性や希望に応じたキャリアを築き上げていくことができます。

通常業務の例 ※他にもさまざまな業務があります。



消火・救急・救助活動



事業所への立入検査



防火防災指導



報告書などの作成



災害現場へ迅速に特殊災害対策車(CS1)を到着させるのが機動科学隊機関員の使命の一つです。出場区域の道路に精通することも求められます。



## NBC災害時に出場する機動科学隊の使命

### NBC災害の現場で人命救助や被害拡大防止を担うプロフェッショナル

核燃料物質・放射性物質、生物剤、化学物質による特殊災害であるNBC災害などが発生した際に出場するのが機動科学隊です。人命救助をはじめ、被害拡大防止のため、処置を迅速に行うことが使命となります。化学工場やその実験設備などで起きる事故、薬品漏えいなどのNBC災害の現場に出場し、NBC災害現場の出場隊に、現場での確に指示を出しながら安全かつ迅速に活動することが、機動科学隊の重要な役割です。また、東京消防庁の機動科学隊には高い専門性を備えた人材が在籍しており、物性を測定する最新の資器材が備えられていることから、NBC災害に対応するプロフェッショナルです。東京消防庁の化学機動中隊や各署のNBC災害対応サポートや指導を行うとともに、全国の消防組織などから視察を受け入れるなど、機動科学隊の活動内容とその技術・意義を広める役割も担っています。

「赤外線分析装置」を使用し、物質に赤外線を当てて物性の特定をします。緊迫した現場では、安全を確保しながら迅速な作業が求められます。

### 目に見えない有毒ガスの危険から都民と隊員の命を守るのも大きな使命

第九消防方面本部 消防救助機動部隊  
平成23年入庁 関東地方出身 [専攻学科: 化学]



私はポンプ隊員としてやりがいを感じていたあるとき、化学機動中隊の存在を知り、大学で学んだ化学の知識を役立てて活躍したいと考え化学災害技術研修の選抜試験を受験しました。合格後、研修を経て化学機動中隊員として活動し、その後、機動科学隊として、現在は特殊災害対策車(CS1)を運転する機関員として勤務しています。機動科学隊機関員の役割は、速やかに災害現場に隊員を運び、現場到着後は迅速に有害物質の特定を行い、人命救助や被害拡大を防ぐことです。現場ではポンプ隊や救急隊なども活動していますが、そこには目に見えない、場合によっては臭いすらしない有害物質があるため、NBC災害のプロとしての的確な指示を出し、素早く事態を収束へ向かわせます。他にも、周辺住民や隊員の安全確保のために立ち入り禁止エリアを指示したり、対処方法を伝えて現場の安全を確保しています。今後も更に専門知識を深めて東京都のみならず、全国のNBC災害の現場で活躍したいと思っています。

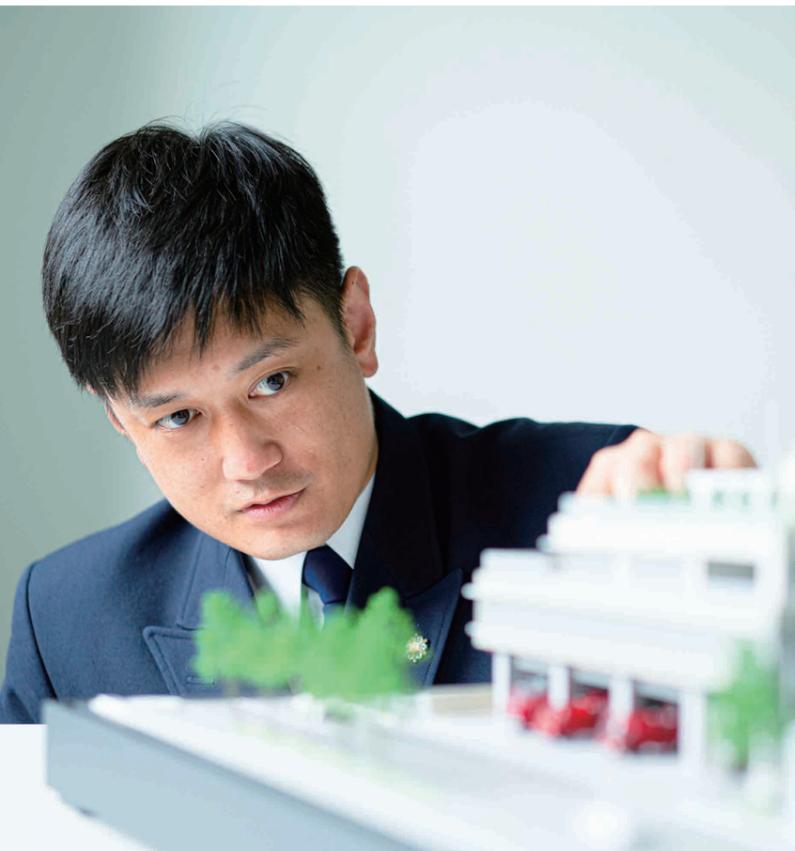
有毒ガスなどが発生する災害現場では陽圧式防護衣を装着して作業します。陽圧式防護衣の中には空気ボンベが装備されています。

試薬を使って有毒ガスなどの物性を調べます。速やかに物性を特定するには、豊富な経験や関係者への情報収集などを通じた的確な状況判断が必要不可欠です。



NBC災害現場では、物性を判定する測定機器が必要不可欠です。特殊災害対策車(CS1)には様々な資器材が搭載されています。





建築



予防業務や庁舎の保全業務  
建築の専門性が活かせる多彩なフィールド

総務部施設課 平成25年入庁 中部地方出身  
[専攻学科: 建築]

私は大学で建築を専攻しており、就職先は建設会社や設計事務所などの選択肢しかないと考えていました。卒業後は建設会社に就職しましたが、同じ建築学科を卒業した友人が東京消防庁に入庁し、「消防官は人のために働き、建築の知識も活かせる」と教えてくれました。そこで、私も東日本大震災で果敢に活動する消防隊員の姿に感動し、「人の命を守る仕事」に携わりたいと考えていた頃を思い出しました。入庁後は警防業務の傍ら、建物の設計段階から防火に関する審査や指導を行う予防業務を担当していました。設計図面が読めて設計業者とも対等に意見を交わせることが評価され、建築を得意分野として活かせることをすぐに実感できました。現在は総務部施設課で消防署庁舎の保全業務を担当しています。今後は消防署の建築知識を持った施設担当職員を育成する本部教養を担当し、力を発揮していきたいと考えています。



物理

消防装備の安全性を検証し  
消防活動技術の進化に貢献

消防技術安全所装備安全課 平成24年入庁 関東地方出身  
[専攻学科: 物理]

東京消防庁の消防技術安全所は、都民の安全や消防活動に関する技術向上を目指し、科学的見地に立った安全検証と技術改良を担っています。私は消防活動で使用される装備品の検証を担当しています。例えば、油火災に使用する泡消火剤を放出する新しいノズルの導入について検証した際は、他のノズルと比較しながら、放出された際の泡の体積の倍率、泡が水に戻る還元時間等について測定し、それを基にした消火実験を実施し、比較しました。私はポンプ隊で5年の経験を積んでおり、検証は実際に火災を発生させて行う、消防官だからこそできる実践に即したものです。大学では物理学の基礎的な部分について学び、論理的に考える力、検証方法の在り方及び報告書のまとめ方等は、今の職務に活かされています。検証の結果を出すプロセスはチームに任せられ、自分たちの意見を反映することができます。検証結果が施策の根拠となり、消防装備の進化を後押しできる面白さや、自分が「この装備の導入に貢献した」と言える“形に残る仕事”にやりがいを感じています。



土木



都民の安全な生活を守る  
防火水槽には土木技術が必須

防災部水利課 平成21年入庁 関東地方出身  
[専攻学科: 土木]

私は震災等で倒壊する建物から人の命を救う仕事に携わりたいと思い、大学では安全・安心な建物を建築するために土木工学を学びました。大学卒業後は建築物を支える基礎杭の技術開発に携わる仕事に就いていましたが、人命や財産を守る消防官に憧れていたことから、東京消防庁を受験し、入庁しました。現在は、新規の防火水槽の設計から設置までを担当しています。100㎡級の水槽を地下に埋め込むため、地盤のデータを見て、どのような技術で工事を行うかを考え、施工図面を作成するなど、以前携わっていた土木の知識が役立っています。また、どこに水利を設置したらより効果的な消火活動ができるかについては、ポンプ隊長の経験から現場を調査して設置位置を決める判断をすることができます。設計から現場監理まで全てを任せてもらえるため、消防官と土木の双方の知識を活かせ、やりがいは大きいです。都民の防災力向上につながるだけでなく、形にも残るモノづくりが水利課の醍醐味です。



電子・通信

24時間365日、1秒も止められない  
システムを守り、改良・進化し続ける

総務部情報通信課 平成25年入庁 中部地方出身  
[専攻学科: 情報処理]

「119番通報を受け、各消防署へ出場を指令する」「タブレット端末で現場から本部へ状況を報告する」。その際の情報伝達に必要なシステムや機器の運用・保守を行うのが、私が所属する情報通信課の役割です。そのシステムを管理する上で、学生時代に学んでいたプログラミングのスキルが役立っています。東京消防庁の情報通信システムは、出場指令の視認性・正確性・スピードの向上や、現場から災害状況の画像をリアルタイムで送信が可能になるなど、進化を続けています。現在は、その進化に伴い、数年に一度行われるシステムや機器の大幅な更新事業に携わっています。東京消防庁というとポンプ隊など消防活動のイメージが強いと思いますが、実は多種多様な部署があり、情報通信課を含むあらゆる職務で、理系の知識を活かすことができます。自分が理系を学んだことで得られた知識や強みを人命救助のために活かせることは、大きなやりがいになっています。



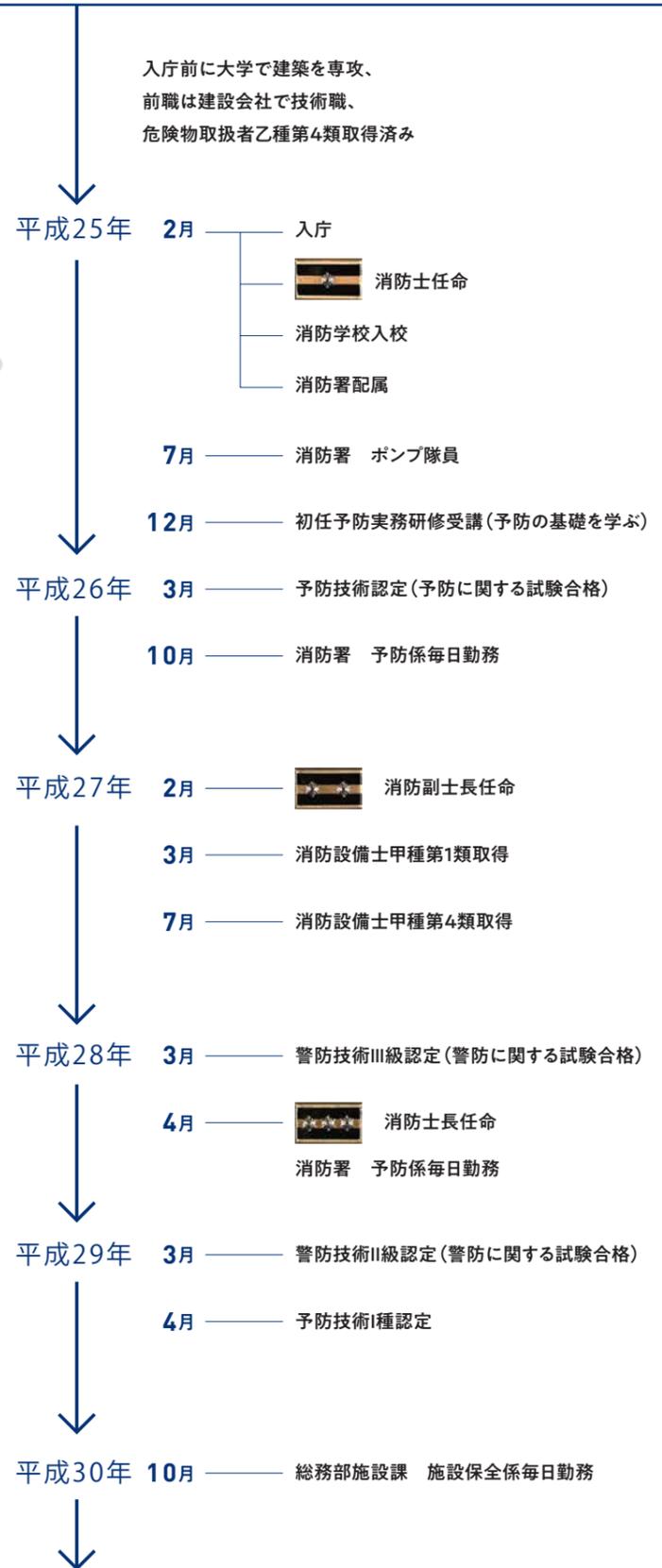
# CAREER STEP | キャリアステップ

理系出身の消防官は、どのように専門知識やスキルを活かしてキャリアを磨いているのか。大学で建築を学び、入庁した先輩の例をご紹介します。

## Aさんの場合

総務部施設課 平成25年入庁

1年2ヵ月の交替制勤務のポンプ隊員を経て、予防課毎日勤務として1年半勤務していました。その後、消防士長に任命され、異動先の消防署で予防課毎日勤務としてさらに2年半勤務していました。入庁5年目より、総務部施設課で建築の知識を活かして庁舎の保全業務を担当しています。



## CAREER EPISODE 1

### 設計図を読み解き建物検査に貢献

消防署勤務時は予防課予防係で建築を担当していました。建物の消防同意やテナント入居に係る協議、審査、検査を行いました。繁華街エリアは狭い土地に建物を建てるため、消防用設備等の設置を指導する難しさに直面し、また、ブランドショップの什器や内装導入では、多岐にわたる設備導入の審査に頭を悩ませたこともありました。それでも安全に利用できる店舗の完成を見ると誇らしい気持ちになれる仕事でした。



## CAREER EPISODE 2

### 建築のより高い知識・技術を磨ける施設課

総務部施設課は都内にある消防署庁舎の保全を担当しています。消防署は地域の緊急時防災拠点であり、庁舎を安全に使うことは非常に重要です。私は現在、改修計画・設計・施工の全てを設計施工業者と進めていく業務を担当しています。工事にあたっては、災害出場に支障をきたさないこと、職員が安全に勤務できることを前提とした施工方法を考え、現場監理を行っています。今まで以上に最新の設計や施工技術を学べる環境であるため、より専門性が高まり、建築という得意分野で力を発揮できていると感じています。



# FIRE ACADEMY | 消防学校

新たに採用された消防官は、全寮制の消防学校に入校し、消防官に求められるモラルやマナーをはじめ、消防行政に関する基礎的な知識や消防活動技術、強靱な体力・精神力を身につけるため、初任教育を受けます。



## 初任教育 消防業務の基礎を修得

主な教科目	座学(関係法令等)	座学(消防業務等)	実科
	法学基礎・消防法規、組織制度、倫理・服務 など	消防活動知識、防災、消防機械・ポンプ、危険物、建築・消防用設備 など	消火・救急・救助活動訓練、礼式、体育、実務研修 など
初任教育の流れ	約1年間		
	約6ヵ月間	約6ヵ月間	約1週間
	初任基礎教育課程 全寮制の消防学校に入校し、座学や実科の授業により、消防官としての基礎を身につけます。	初任実務教育課程 消防署に配属され、災害現場での活動や事務処理などの実務を通じて教育を受けます。	初任総合教育課程 課題研究発表などを行い、消防学校卒業となります。

※時期により期間が異なる場合があります。

## 消防学校のある1日

6:00	8:30	12:00	13:00	17:15	22:00
起床、点呼 布団を畳んだらすぐ点呼に向かいます。校庭にクラス全員揃って整列します。	清掃、食事、課業準備 敷地内及び消防学校周囲の清掃。空き時間に体力トレーニングをする学生もいます。食事は管理栄養士が考えたメニューです。	午前始業/課業 消防官に必要な基礎知識、業務を行うための専門知識、消防官としての心構えなど、幅広く学びます。消火、救急、救助に関する様々な訓練や機器取扱い訓練を通じて、実践的な技術を身につけます。	昼食、休憩 午後始業	終業/自由時間 自由時間にもすることはたくさんあります。	点呼、就寝 ・自主訓練 ・体力トレーニング ・夕食、入浴 ・洗濯、アイロンかけ ・自習 など

## 理系での学びは消防官の大きな武器になります

消防学校教官 平成16年入庁 九州地方出身

消防学校では消防法などの関係法令や消防業務を座学で学びます。法令基準に即した測定や審査・検査では、危険物や建築などの理系の知識や技術など、理系ならではの論理的思考力が活かせる分野が多数あります。「こんなところで理系や数学の知識が必要なのか」と苦勞する学生が多い中、理系出身者は理解が早い上に、学んだ専攻を活かして防火、防災、予防及び装備など専門分野の選択肢も多彩にあります。加えてポンプ隊員などで災害現場へ出場した際に、現場をよく理解した専門職になれることも大きな特徴です。もし、現在体力に自信がなくても、「東京の安全・安心を守りたい」などの明確な目標があれば、消防学校で教官・助教、そして仲間から刺激を受けることで体力・精神力・協調性を身につけられるはずです。「理系×消防官」の専門性を武器として、東京消防庁であなたの夢や理想を実現してください。

